

キヌサヤエンドウ挟み込み被覆栽培法の開発

○岡本 崇・岩橋良典
和歌山県農業試験場

背景

和歌山県の抑制裁培エンドウは、8月に播種するためチョウ目害虫等による被害の発生が多い。特に、9～12月に発生するウラナミシジミはエンドウの花や蕾に産卵し、ふ化した幼虫は直ぐに花内の幼莢に食入するため薬剤による防除が難しい。そこで、ウラナミシジミやオオタバコガ等に対するネット資材の防除効果を検討し、挟み込み被覆栽培法を開発した。

ネット資材の選定

4mm目合い白色防風ネット（実目合い3.5×4.5mm）、1mm目合い防虫ネット、0.8mm目合い赤色防虫ネットおよび不織布の各資材で、エンドウ誘用の支柱とキュウリネットを挟み込んで被覆区（殺虫剤散布無し）とし（右写真）、無被覆の対照区（殺虫剤散布有り）と比較した。結果、不織布を除きウラナミシジミによる莢被害は対照区の1/10以下であった。しかし、オオタバコガによる莢被害が対照区に比べ被覆区で多くなった。ウラナミシジミとオオタバコガを合わせた莢被害は4mm目合い白色防風ネットが最も少なく対照区の1/2以下であったことから被覆資材として選定した。



写真 挟み込み被覆状況

挟み込み被覆栽培法の概要

- ①播種前または播種後発芽前に誘引用の支柱を立て、キュウリネットを張る。
- ②支柱の高さ約50cmの位置に、ゴムバンドでカーテンフックを固定する。
- ③カーテンフックに白色防風ネットを両側から掛けて展張し、下端は畝の上に垂らす。
- ④畝の端は誘引クリップで防風ネットを支柱に固定する。
- ⑤キヌサヤエンドウの生育に合わせて、カーテンフックの位置を順次上げる。
- ⑥オオタバコガの発生が見られた場合は、薬剤による防除を行う。
- ⑦台風等の強風時には防風ネットを外し畝上にまとめる。

Development of the sandwich covering cultivation method of snow peas

Takashi Okamoto・Yoshinori Iwahashi
Wakayama Agricultural Experiment Station